

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域福祉の理論と方法 I Community Development I		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
山田 昇	本館 2F	授業時に説明します。		授業中に指示します
授業の概要				
社会福祉基礎構造改革や社会福祉法の施行により、今後の社会福祉の原点は地域福祉にあるとされ、法的にも位置づけられている。少子高齢社会が進む現代社会において地域福祉の推進は重要であり、社会福祉の専門職である社会福祉士の担う役割は大きいといえる。本科目では、地域福祉を理解するために、地域福祉の基本的な考え方・歴史的発展過程・理念と概念・社会福祉サービス等を学習する。				
授業の目標				
①地域福祉の領域や対象を説明できるようにする。 ②地域福祉の発展過程を通して、地域福祉の重要性を説明できるようにする。 ③社会福祉サービスと地域生活をつなげて捉えることができるようにする。 ④地域福祉推進に必要な諸活動を概説できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行うが、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。またほぼ毎回の授業において小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。				
学習の成果（学習成果）				
地域福祉の意義と機能に関する概要についてその概要を述べることができ、社会福祉士の専門性をつなげて体系化することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、地域福祉とは 小テスト			
第2回目	地域福祉の自立とは、地域福祉とコミュニティケア 小テスト			
第3回目	社会福祉基礎構造改革、地域分権化、ボランティアリズム 小テスト			
第4回目	イギリスのコミュニティーケア改革、日本の地域福祉の発展過) 小テスト			
第5回目	日本における人権問題、虐待 小テスト			
第6回目	権利擁護と地域生活 小テスト			

第7回目	サロン活動と自立生活支援事業 小テスト
第8回目	地域福祉計画と地域福祉活動計画 小テスト
第9回目	つながりを作る活動の発表①（発表）
第10回目	つながりを作る活動の発表②（発表）
第11回目	居宅サービスおよび関連サービスと地域生活 小テスト
第12回目	施設サービスと地域生活 小テスト
第13回目	地域保健・生涯学習 小テスト
第14回目	地域福祉の財源 小テスト
第15回目	まとめ（地域福祉の歴史・理念・ケアの実際を概観する） レポート
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	第8回目の授業において小テストを行う。ほぼすべての授業にリアクションペーパーを行う。このことにより学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えを明確にすることが出来る。
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

『社会福祉士養成講座 地域福祉の理論と方法』 第3版

履修上の留意点・ルール

社会福祉士国家試験受験資格取得の為の必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。
